

事例 43

タイトル： トイレに行きたくない

・ <事例の状況>

Aさんは尿意がなく、自らトイレに行くことができない。そのため、トイレの声掛けをしているが拒否することが多い。「自分でいきますからいいです。」「やめてください。」「行きたい時にいきます。」と言う。しかし、常にパッドが濡れている状態で、パッド交換だけでもさせて欲しいことを伝えると、「濡れていません。」と言う。その後も誘い続けると無視をしたり、「もうやめて。」「放っておいて。」と職員を叩いたりする。時折、「そうですか、分かりました。」とトイレの声掛けに応え、トイレ前まで行ける時がある。しかし、便器の前に行くと表情が曇り、「行きません。」「立つのがつらいのでしません。」「今はしたくありません。」と言い拒否する。ごくまれに「そうですか。」と言い、表情は硬いがトイレに行くこともある。

・ <この事例で課題と感じている点>

本人が納得できないままトイレに誘われることで、不安や怒りを感じている。

本人が何故、拒否しているのかはつきりせず、無理強いしてしまう。

本人が強い口調で怒ったり、叩いたりすることで職員はストレスを感じている。

・ <キーワード>

トイレが嫌。 嫌なことをさせられる。

・ <事例概要>

【年齢】 80歳代後半

【性別】 女性

【職歴】 自営業

【家族構成】 夫と二人暮らしだった。夫が亡くなり、しばらくは一人で暮らしていたが、その後、息子夫婦と同居する（子供は3人）。

【認知機能】 不明

【要介護状態区分】 要介護4

【認知症高齢者の日常生活自立度】 a

【既往歴】 脳梗塞 心房細動 深部静脈血栓症

【現病】 糖尿病 高血圧症

【服用薬】 ハーフジゴキシン・ワーファリン・マグミット・ワソラン

【コミュニケーション能力】 自分から話すことは少ないが、家族、他利用者、施設職員が話し掛けると「分かりました。」「はい。」と返事し、職員に何かしてもらおうと「ありがとう。」と感謝する。しかし、会話の内容は理解できておらず、職員が介助に入ろうとすると怒り出すこともある。また、家族と会話をしている時は、息子は夫になり、嫁は誰か分からない。

【性格・気質】 素直で優しいが、時に気の強い面もある。

【A D L】 車椅子での生活が主で移乗・移動には介助が必要。食事は自力摂取ができる。排泄は常にパッドに失禁状態なので、定期的にトイレ誘導を行っている。(夜間は定期的にパッドの交換をしている)

【障害老人自立度】 B2

【生きがい・趣味】 畑仕事。編物。

【生活歴】 末っ子として生まれ、幼少期からの友達が2~3人いたが今は他界。結婚後、夫の仕事(自営業)を手伝っていた。普段は墓参りにも行き、元気な時はよく旅行に行っていた。夫の死後一人で暮らしていたが、数年前より息子と同居。デイサービス・ショートステイを利用し在宅生活を続けていたが、脳梗塞を発症し、その後車椅子生活となる。主介護者の体調がすぐれず、介護ができないため当施設入居となる。

【人間関係】 普段は物静かで誰にでも好かれる性格。他人や家族にとっても親切であった。家族の面会も定期的にあり大切に思われている。職員への挨拶やお礼はいつも自分からして、普段は穏やかに話している。人の噂話が嫌いで、賑やかな場所が苦手。他の利用者の声や訴えが大きいと、はっきりと注意する意思の強さも持っている。

【本人の意向】 「(トイレは)自分でします。放っておいてください。」

【事例の発生場所】 介護老人保健施設